

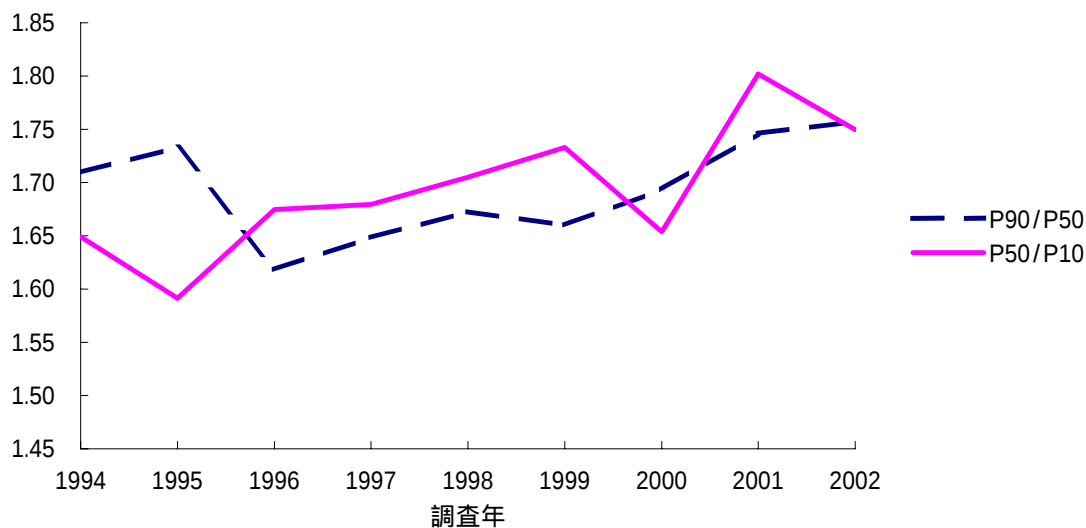
1．所得格差の拡大と所得階層固定化の動き

1 - 1 所得格差は 1990 年代後半以降、拡大傾向

バブル崩壊後、経済停滞が長期化しているが、はたして所得格差は拡大しているのだろうか。ここでは同一個人を追跡調査するパネル調査の利点を生かして、世帯間の所得格差と所得階層間の流動性がどのように推移してきたかを示す。

図表 1 をみると、高所得階層と中位所得階層との所得比を示す $P90/P50$ (注 2) の値は、1994 年調査の 1.71 から 1996 年調査の 1.62 へと一度、縮小している。これにはバブルの崩壊が影響しているものと思われる。しかし、その後は緩やかに上昇し、2002 年調査では 1.76 まで上昇している。また、中位所得階層と低所得階層との所得比を示す $P50/P10$ は、期間を通して若干の変動はあるものの、1994 年調査の 1.65 から 2001 年調査の 1.75 へと概ね右肩上がりで推移している。したがって、この結果からは 1990 年代後半以降、世帯間の所得格差が拡大していることがわかる。

図表 1 所得格差の推移



注 1 1993 年時点で有配偶世帯であり、2002 年まで継続して調査に回答している世帯を対象。

また財産所得は世帯年収から除外し、世帯規模を考慮した所得額を用いている。図表 2 も同じ

注 2 図表 1 で用いた数値は、対象世帯の所得を 100 分割したとき下から 10 番目の所得を P10、50 番目の所得を P50、90 番目の所得を P90 とし、P90 と P50 の比率($P90/P50$)、P50 と P10 の比率($P50/P10$)を、それぞれ調査年ごとに表したものである。